

平城京左京一条二坊十坪の調査 (平城第583次)

今回の調査は、現在、田園と住宅地が混在した風景が広がる、平城宮の東方、法華寺の北方でおこなわれました。平城京左京一条二坊十坪の北西隅に位置すると想定されます。奈良文化財研究所では、同坪について、住宅建設等ともなう比較的小規模な発掘調査を積み重ね、当該地の遺跡の解明につとめてきました。

今回の調査区も、39㎡とやはりそれほど広くありません。周辺の調査成果から、坪を区画する施設や建物の検出を想定していました。ところが意外にもみつかったのは、真っ黒な整地土の広がり、真っ黒な埋土をもつ2条の東西溝と長方形平面の土坑でした。

真っ黒な土を掘ってみると、炭化物や埴埴・羽口・鉄滓・銅滓・炉壁片等、冶金に関連した遺物が非常に多く出土しました。いっぽう、遺構面自体が焼けて硬化している様子はありませんでした。おそらく、本調査区は近傍に所在した冶金関連施設の廃棄に関連する一角であったと想定できます。

小規模ながらも、平城宮や法華寺の造営の具体的な姿を示唆する大きな成果を得ることができた調査となりました。引き続き規模の大小に関わらず、十分な注意を払って調査に臨みたいと思います。

(都城発掘調査部 鈴木 智大)



真っ黒な埋土をもつ東西溝(中央部、北東から)